

むかしの川は あばれ川

川の流れは 変わったそうな
大雨降るたび かわったそうな

豊の里の中ほどに ぽつんと小高い岡山一つ
山の起源は知る由ないが 川の流れを変えたと
武生の方から豊の方へ 流れ流れた川の水
岡山の岩にぶち当たり 二つに分かれて右、左
気ままに 気ままに流れたと

岡山の西を流れた大川に
水が運んで出来た島 中の島があったと言う
よほど大きな島だったのか 人が生活し
きつねや たぬぎや 鳥たちも住んでいたそう
中の島にあった家と言うことで 人は今でも
笠原源左衛門さんの家を「中島はん」と呼んでいる

大雨降れば あばれ出す

岡山の東を流れた洪水は 上・下氏家をひと呑みに
二丁掛の方へ流れたと

田んぼや畑は湖に 鯉や緋鯉が泳いだと

岡山の西を流れた洪水は 上・下野田をひと呑みに
和田の岩立山にぶつかつて

西大井 冬島の方へ流れたと

折角作つた野菜や穀物 時には人や家まで流したと

むかしの川の大あばれ 大雨降って洪水が

岩や土砂を運んで山づくり たつたの日中で山づくり

いつもこととははしる由ないが

和田の里の中ほどに 突然できたと言う山 日中山

むかしの川の大あばれ 康安元年六月十八日巳の刻

地震が起きたその後には 大雨降って洪水が

御板部郷の岸村と志摩村の 二つの村を流したと

明治二十九年 六月四日 午前十時

大雨降つて洪水が 鳥井の田畑をえぐり取り

大水引いたその後、突然できた溜池二つ

蓮の花が咲いたと言う ひしの実が採れたと言う

日照りが続けば 水なし川に

田んぼも畑も干せあがり 地面が大きくくび割れた

人は 天に向つて雨乞いまつり

雨が降ればよいものを 草木が枯れて飲み水渴れて

天明 天保の大飢きん 餓死した人が道端に

青溜 赤溜 溜池づくり 小高い所に溜池づくり

日照りが続けば水流す 水なし川に水流す

多くの人が泣かされた 気ままな川に堤防作り

水の調節考えて 豊かな地区に豊かな実り

あばれ川との戦いは 遠いむかしの物がたり

